力を育む体験交流

オピニオン

平和教育、防災学習、人権学習など命を守る教育が不可欠

戦後69年目の夏が来て、オキナワ・ヒロシマ・ナガサキに続き東京でも平和祈念や戦没者追悼式典が開催された。ウクライナやシリアなど世界各地で戦闘や内紛が続く中にあっては、日本の平和も噛み締め、式典の会場にある「過ちは繰返しませぬから」と刻まれた碑文は世界中が重く受け止めなければならない。しかし、原爆の恐怖や惨状を目に焼き付け胸に刻んだはずの唯一の被爆国日本で、福島第一原発の厳しい現状は残念である。その、原因となった東日本大震災や、今なお捜索と復旧が続く広島市での集中豪雨による土砂災害は甚大な被害をもたらした。また、女子高校生が同級生を殺害後さらに解剖しようとしたなどショッキングな事件が起こった。育児放棄や虐待も、いじめや不登校も、児童生徒の自殺も後を絶たない。子どもの貧困に至っては6人に1人もの高い比率になっており、子どもたちも生き辛い時代である。人の命の尊厳が危うい。平和教育、防災学習、人権学習など命を守る教育が不可欠となっている。夏休みの終わりに、宿題代行サービス業なるものが話題になった。仲間同士で野山を掛け巡り真っ黒に日焼けし、遊び築能力も自然との対応能力も、遊びから身につけた時代があったが、今日ではそのような機会が極めて少ない。食料自給率39%、我が国では外国産に頼らざるを得ないが、食の安全が問われている。日本の地方は食料生産現場であり、生産工程も、鮮度も、調理の仕方も、味もすべてを学ぶことができる食育の場である。特別教育活動での修学旅行を始め、林間学校や自然体験は当然だが、キャリア教育（職場体験・インターンシップ）においても農山漁村生活体験（民泊）や農林漁業、アウトドアスポーツ、味覚体験、伝統工芸体験、ボランティア活動など、生きる力を育む絶好の機会である。教育現場の多様な課題とニーズに応えるべく、全国ほんもの体験ネットワークを始めとするコーディネート組織において教育効果の高い受け入れを推進している。また、安全安心は当たり前だが、安全対策・危機管理・法令遵守など、その徹底のために、全国統一マニュアルを整備し教育研修を実施しており、本紙掲載地域での体験交流活動の活用をお薦めしたい。

全国ほんもの体験ネットワーク　会長
（体験教育企画　代表）　藤澤　安良

過ぎて宿題が疎かになったのではなさそうである。人間関係構

岩手県・久慈市

いわて くじし こころの体験

白樺ゆれる 琥珀の大地 海女の国でこころの交流を

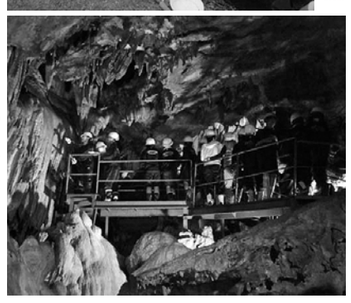
久慈市は岩手県の北東部に位置し、西は日本一の白樺林や豊かなブナ林が連なり、そこから流れる清水は、リアス式海岸を形成する太平洋に注ぎ、美しい景色を魅せるとともに、おいしい海の幸を育てています。広大な海と自然豊かな山々、日本短角牛、豊かな伝統食文化、木炭生産、心の通う民泊など、豊かな自然環境と素朴な生活文化、温かな人々のいる久慈市は、山、里、海の全ての体験を堪能できます。

また、豊かなフィールドと人情味のある指導者のもとでの体験は安心して心を開く環境を作っており仲間を尊重し、自己を見つめ、感じたことを素直に表現し合うことができます。こうして新しい自分に気づき、豊かな心を育て、そしてきっと忘れられない体験になることでしょう。

琥珀採掘体験

久慈では恐竜が生息していた時代の樹木から出た樹脂が地中に埋もれて、数千万年の時を経て化石化した「琥珀」が採れます。世界的にも古い琥珀が採取される久慈市では、日本で唯一の琥珀の石が発掘されることもある白亜紀の地層から、自然の手で琥珀を発掘する「琥珀採掘体験」です。久慈市ならではの体験で、かけがえのない思い出を作りませんか。

白亜紀の地層から琥珀発掘



総延長6300㍍に及ぶ鍾乳洞の内間木洞窟探検。珍しいコウモリにも会えるかも

民泊体験

緑に囲まれたのどかな農村や、潮の音が聞こえる漁村で数人のグループで田舎暮らしを体験する民泊体験ができます。時間の流れがゆっくりと感じられる農山漁村で、地元の方と交流し、さまざまな文化に触れ、忘れることのできない体験が待っています。（受け入れ人数＝4～300人）

郷土料理体験

岩手県民は昔からさまざまな雑穀文化を発展させてきました。久慈市ならではの食文化に触れ、地産地消の貴重な食事を味わえるのが、久慈市の郷土料理体験です。「あまちゃん」で人気を博した郷土料理「まめぶ」作りができるまでの流れや、琥珀が人々の生活にどのように関わってきたのかを学べます。その中でもお勧めなのが、恐竜の化石が発掘されることもあり、自分の手で琥珀を発掘する「琥珀採掘体験」です。

心の通う民泊で田舎暮らし

民泊先での料理体験

漁船に乗って漁師体験

漁師体験

小型漁船に乗船し、「カゴ漁」「刺網漁」を体験します。地元漁師の指導のもと船上から漁の様子を観察し、捕獲した魚は実際にさばくこともできます。

シャワークライミング

指導者のもとで、渓流を歩行で上流へと登っていきます。渓流は淵や瀬、滝などの変化に富んでおり、予測できない環境の中を流れに逆らってゴールを目指すうちに、協力することの大切さを感じられます。

渓流を遡行するシャワークライミング

ふるさと体験学習協会
担当者　高橋昭治
営業時間　8：30～17：15
〒028-8030 岩手県久慈市川崎町1-1
久慈市役所交流促進課内
TEL 0194-75-3005　FAX 0194-75-3007
URL:www.kuji-taiken.jp/

新潟県・上越市・十日町市

人を思う心、生きることの大切さ 越後田舎体験で伝えます

越後田舎体験事業で生徒たちを受け入れはじめてから16年が過ぎました。この16年の間にはさまざまなドラマがありました。初めて学校を受け入れたときは、体験も無事に終わり、お別れ会の時に不安と緊張が解け、思わず流れた涙がすべてを物語っていました。

受け入れた子どもたちとの手紙のやり取りやお互いに訪問するなどの交流も続いています。「私たちも来てくれた学校へ行ってみよう」と学校訪問した地域の人たちもいます。受け入れ時に大雨が降って大変な思いをした学校と受け入れ民家もありました。

これまでに延べ650団体、6万8500人の方が上越市と十日町市においでいただいています。ほんの2泊か3泊の滞在ではありますが、田舎やその暮らし、人の温かさを感じていただけたと思っています。

越後田舎体験では、地域の暮らしや体験、人との交流の中で、自然と自然のつながり、人と人とのつながりを感じていただき、心の平和と生きる力をはぐくむ貴重な時間を持っていただけるような地域でありたいと思っています。

民泊（ホームステイ）

私たち地域では民泊（ホームステイ）の受け入れを行っています。民家の方と過ごして体験、交流することで何か感じるものがあるようです。受け入れにご協力いただく多くはお年寄りですが、越後田舎体験で来ていただく生徒たちから元気をいただき、300軒以上の民家が「何かを伝えたい」と考え、受け入れしています。

信濃川のラフティング

2013年度から、日本一の川「信濃川」でのラフティングが体験できるようになりました。激流がないので初心者向けで、周りの自然環境を観察しながら、安心安全に体験していただくことができます。

地元の人との交流

体験を通した地元の方との交流にもお応えしています。昔の遊びを通じて地元の高齢者との交流、地域探検で各家を訪問して農村の暮らしを学ぶ、地域の方と祭りの準備やボランティア活動なども行っています。

雪国体験

とにかく雪はたくさん降ります。3～4㍍の積雪のある地域での雪国体験です。雪をエネルギーとして利用している施設の見学も可能で、自然エネルギーの活用も学ぶことができます。

新潟・越後にぜひ、一度お越しください。ご案内いたします。

漁業体験では魚をさばき干物づくりに挑戦

浴衣を着て椅子に腰掛けたお点前（立礼）

昔遊び　パッチめんこ

浦田田植え体験

民家でじゃがいも掘り

キャンドルロード作り

越後田舎体験の特徴

①日本海の長い海岸線と、米どころ新潟の広い平野、そして棚田やブナ林がある日本の原風景が残る中山間部を持つ越後田舎体験のエリアは、自然・環境・歴史民俗学習の適地です。

②あらゆる体験プログラムは土地の人がインストラクターとしてかかわります。

③企画コーディネート（手配、連絡、調整、精算）は協議会事務局で承ります。

④広域で仲間が連携、協力して受け入れを行います。

越後田舎体験推進協議会
通常営業時間　8：30～17：30（月～金、祭日・年末年始等休み）＊時間外でも電話してみてください
〒942-0411 新潟県上越市安塚区安塚722-3
雪だるま財団内
TEL 025-592-3988　FAX 025-592-3324
E-mail taiken@yukidaruma.or.jp
http://www.echigo-inakataiken.jp/

岩手県・三陸海岸

被災地だから「私たちには伝えなければならない責任」があります

大震災体験の伝承・復興への歩み・生き抜く力

岩手県田野畑村は、三陸復興国立公園の北部に位置し「日本一の海岸美」と称される「北山崎」など恵まれた景観の中に住民が漁業や酪農を営む、人口4千人弱の典型的な農山漁村です。

2011年3月11日に村を襲った大津波は、38人の死者行方不明者を出し、住み慣れた家、船や漁港施設、駅や学校など目の前から全てを奪い去りました。しかし人的な被害が比較的少なかったのは、明治や昭和の大津波から語り継がれた教訓、日常の防災への意識や訓練によるものであり、これから先も伝承されていくことでしょう。

この地を訪れる学校の生徒にとって、悲しみや仮設住宅などでの不便な暮らしと向き合いながら生業の再興や復興へと歩む住民のたくましいこの姿は、どのように映り、何を感じ取り、いかに考えさせていくのでしょうか。

生徒自らが「生きる力」を身につける必要性を悟り、他の人間と「心の絆」でつながることの大切さについて考え、農山漁村の真の豊かさを五感で感じることができる学びの場所が今ここにあります。

組織と教育訓練

「体験村・たのはたネットワーク」が受け入れコーディネート組織として各種手続きや手配のワンストップ化を図り、田野畑村役場が後方支援をする官民一体の体制を整え、学校や旅行会社の目的や要望に対し、迅速かつ柔軟に対応しています。

また、各プログラムの指導者や民泊家庭は定期的な研修を行い、漁船プログラムについては海上保安庁などとの連携訓練によって安全確保に努めています

民泊（ホームステイ）

被災後も漁家や農家を中心に85軒の受け入れ家庭があり、約300人の子どもたちと交流が可能です。

宿泊ホテルが復旧再開

350人の収容能力を持つ「ホテル羅賀荘」は12年11月に復旧リニューアルオープン。津波への新たな安全対策を講じるとともに、セレモニーや屋内活動多目的な活用が可能な交流センターもホテルに隣接整備されました。宿を出るとすぐに体験現場という絶好のロケーションにあり、効率的なプログラムを組むことができます。

お薦めプログラム

サッパ船アドベンチャーズ

津波被災から即座に復興を果たし、今や地域観光の復興の大きな牽引力として注目されます。漁に使う小型漁船（サッパ船）に乗り、断崖直下や岩礁の間を縫うように航行する漁師の勇姿に気迫を感じます。洋上や漁港での体験は、漁業の厳しさや漁師の知恵を伝えます。

郷土料理体験

元気かあちゃんの指導のもと、地元海産物や農産物を生徒が自ら調理して味わいます。食の安全性や大切さに対する意識が高まります。

大津波体験ガイド＆語り部

大震災により被災し仮設住宅などで生活している住民自らが、津波の脅威、当時の記憶や行動、今に至るまでの体験、絆のありがたさなどについて現地を案内しながら語ります。宿での「語り部」やワークショップについても対応可能です。

人気のサッパ船で漁業体験

ホテル羅賀荘

民泊家庭での夕食作り

語り継ぐ責任を持って臨む「震災復興ガイド＆語り部」

体験村・たのはた教育旅行受入協議会
NPO法人 体験村・たのはたネットワーク
担当　楠田・武井
〒028-8402 岩手県下閉伊郡田野畑村北山129-10
北山崎ビジターセンター内
TEL 0194-37-1211　FAX 0194-33-3355
E-mail:taiken-tanohata@car.ocn.ne.jp
URL:http://www.tanohata-taiken.jp/